



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年1月1日

1月 第216号

奈良・人と自然の会



<迎春（自然工作）>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	新そば祭り・レポ	9
Monthly Repo. ならやま	2	忘年会・レポ	10
里山の今・花だより	3・4	私のふるさと	11
自然教室・レポ	5	ならやま投句箱	12
月例研修会・レポ	6	ならやまプロジェクト	13
歴文研修会・レポ	7	行事案内	14
芋煮会・レポ	8	幹事会報告・編集後記	15



「ONE TEAM」

会長 鈴木 末一

あけましておめでとうございます

皆さま方におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

いよいよ当会も二十歳の成人式を迎える前年となりました。会員数も創設期の 45 名から年々右肩上がりが増加し、172 名にまでになってまいりました。全国に数多ある市民活動団体でも稀有な存在ではないでしょうか。市民参加型へハンドルを切って約 10 年が経過しました。奈良市はもとより近隣市町在住の方々の比率も三分の二にまでなっています。

「人材」は、「場所」、「志(資)金」と共に、活動を支える最重要項目です。昨年は天声人語で市民目線の最高の評価をいただきました。それは、「1 万 2 千歳の知恵と経験」です。即ち、当会のマンパワーの素晴らしさを凝縮した言葉です。

ならやま里山林における「ならやまプロジェクト」活動も、ほぼ順調に推移してきているかとは思われますが、5つの地区について、確たるコンセプトを確立させていかなければなりません。そのためにも、里山研修会を開催し、将来に向かっての方向性について協議し合い、共通認識を持つことが喫緊の重要課題ではないでしょうか。実のある研修会を実施するため企画会議やならやまプロジェクト委員会、そして幹事会での十分な討議を重ねて成案をと考えています。

2019ユーキャン新語・流行語大賞に選ばれた「ONE TEAM」は、ならやまプロジェクト推進にも当てはまる言葉だと思います。「ONE TEAM」は、日本が初のベスト8入りを遂げ、日本列島を熱狂の渦に巻き込んだラグビーW杯日本大会のチーム・スローガンであることは、ご承知のことと思います。「4年に一度じゃない。一生に一度だ」の公式キャッチフレーズで始まった

2019日本大会は、日本代表チームが開幕戦のロシアに勝利すると、アイルランド、サモア、スコットランドと次々に撃破し、予選プールを4連勝で日本ラグビー史上初の決勝トーナメントに進出するという快挙を成し遂げました。

熱狂の渦を巻き起こした源である「ONE TEAM」は、ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフさんが掲げたテーマです。7カ国15人の海外出身選手を含む31人の代表選手を選出しました。どんなに強豪といわれるチームであっても、個人技に如何に優れた選手を集めたとしても、選手たちの心が一つにならなければチームとして機能はしないはずです。リーチマイケル・キャプテンを中心に桜戦士ONE TEAMとして結集し、快進撃を遂げたのでした。

ひと昔いや二昔前までは、バットとグローブを持ちユニフォーム姿の野球少年を、至る所で見かけました。しかし暫くしてサッカーブームが起こり、昨年からはラグビーを始める子どもたちも急増しているようです。子どもたちにとっては、自分がやってみたいと思う競技の選択肢が増えたことは、好ましいことではないでしょうか。

当会の活動は、たかがボランティア、されどボランティアであります。172の個性の数だけのニーズがあります。しかし、個々に主張しては、集団としてのまとまりは期待できないと思います。やはり、志を豊かにし良識ある個性と人間力が根底に備わった集団として、つまり「ONE TEAM」スピリッツをお一人お一人が、お持ちいただくことが大切ではないかと思います。

なお、本年から20周年に向けた諸準備などにも取り組む予定です。皆さま方のご忌憚のないお声をお聞かせいただきますようお願いいたします。



Monthly Repo. ならやま

八木 順一

11月21日(木) 活動 晴れ 82名+4名

もう迎春準備が始まる。打ち合わせでは名札のパネル貼付の励行や新そば祭りの件が中心となる。近大生来訪。里山 G は迎春用工作準備や櫓木用コナラの伐採、エコ G はタマネギ畑の畝づくりや移植、そして景観 G は彩の森の竹林整備を行う。その他ビオ班は水生生物調査、花班は花畑の草引きと柵づくり、そしてパト G は2 コースのパトロールと観察路整備に取り組む。また果樹班はブルーベリー移植が主な活動になる。



と観察路整備に取り組む。また果樹班はブルーベリー移植が主な活動になる。

11月28日(木) 活動 曇り後雨 79名+9名

悪天候のため午後は活動も中止になるがそば祭りは無事終了。ソバの栽培は今年をもって終了とのこと。打ち合わせではこの件のほか果樹 G の件や市民のためのセミナーの紹介等が行われる。また蕎麦クラブを指導されてこられた田辺先生からも挨拶があった。今回初めてシニアカレッジより7名参加。里山 G はシイタケ用櫓木伐採と干支工作準備、エコ G は畑の掘り下げと芋畑の耕運、そして景観 G は実りの森の草刈りを行う。またビオ班は溝掃除、花班はそば祭りの準備、実りの森の倒木処理と保護柵の設置に時間を割く。

12月5日(木) 活動 晴れ 72名

12月になった。迎春準備が始まる。新入会員1名。打ち合わせでは迎春準備の日程連絡のほか、20周年記念のキャッチフレーズやロゴマーク募集のお願いが再度行われる。里山 G はコナラ伐採と干支工作準備、エコ G はサトイモや冬野菜収穫

のほか畑へのチップ入れ、そして景観 G は彩の森で竹林整備を行う。またビオ班は池水抜き準備、



花班は西花壇柵づくり、パト G は3 コースパトロールと観察路整備を行う。その他果樹班はブルーベリーの苗の植え付けに取り組む。

12月12日(木) 活動 晴れ 86名+9名

恒例の芋煮会。準備の後、12時過ぎにはスタートし、ごちそうを堪能。近大から6名、シニア関係3名来訪。里山 G は薪材の玉切りや薪割り、エコ G は芋煮会の準備、そして景観 G は彩の森の竹林整備を行う。その他ビオ班は水生生物調査、花班は大根の漬け込みのほかスイセンの植え付け、そしてパト G は4 コースパトロールと観察路整備に取り組む。また果樹班はカキ等の植樹とイチジクの剪定に時間を割く。

12月19日(木) 活動 曇り 93名

今年最終の活動日。今年最多の参加者だ。午前中の通常活動。午後は迎春準備になり、ミニ門松作りなど思

い思いの作業に没頭。朝礼では会長から一年の感謝とお礼の言葉の他、初出式



の日程連絡も行われる。また先週発生した会員のけがの報告も併せて行われる。里山 G は迎春用工作準備や櫓木玉切・運搬、エコ G は水田へのチップ入れ、そして景観 G は第3駐車場上の竹処理を行う。その他ビオ班は備品の買い出し、花班はミョウガの霜囲い、そしてパト G は1 コースのパトロールと観察路整備に時間を費やす。また果樹班はブルーベリーの除草に取り組む。

里山グループ

◆初冬の里山

平田 範光



この冬はベースキャンプからの黄葉が例年になく鮮やかに見える。12月になっているにも関わらず、いまだコナラの黄褐色が里山一面を覆っている。暖かい日が続いたせいだろうか。この分では年末まで黄葉が見られそうだ。

そういえば、2017年の台風で1本になった大きな渋柿にまだメジロや野鳥の姿を見ていない。下から見上げると結構赤く熟れているように見えるが野鳥たちには、まだ少し早いのかな？人間たちは、熟したのを見つけて食べているのに。この分では、年を越してから熟して1週間くらいで全部野鳥たちのエサとなり、木の下テーブルや椅子を汚すので後片付けが大変だ。

12月は迎春準備で忙しい。12月の活動日は3回しかない。来年の干支のネズミの置物を大澤さんや村上さんを中心に約40個分の部品を準備し、最後の活動日(12月19日)に希望者に提供する。そして、ミニ門松も例年通り希望者に作ってもらうため、「たけのこ平」まで行って孟宗竹を伐採して持ち帰った。直径15cm位の太い竹を門松の台に使うので、切るのも大変だったが、数名で約50個分のミニ門松の台を作ることができた。



また、19日に製作する予定のベースキャンプ前に飾る1対の門松のために、竹林で真竹を伐採した。立派な門松ができますように。

里山の中には、11月にシイタケの櫓木用に伐採したコナラの原木が30本くらい転がっているが、1月からは、これらを切断し(約250本)、櫓木として仮伏せし、2月のシイタケイベントの準備が始まる。

この1年間、安全に十分気をつけて作業を遂行し無事に過ごせた。皆さん、ご苦労様でした。

新しい年もよろしくお祈りします。

エコファームグループ

◆酒絶ちの記

小山 喜与男

とるに足らない私事で恐縮ながら、私は5月17日から飲酒を絶っている。その前夜、ある飲食店で呑んだ冷酒3〜4合が祟り、JR駅のプラットフォームで転倒(かどうか記憶が定かでない)し右顎を裂傷、出血甚だしく駅員の手配で救急車のお世話になった。翌日、口腔外科での診察で「左下顎頭骨折」が判明した。担当の30歳くらいの若い医師に「どの位呑んだんです？エッ3合・・・、年齢を考えて下さいよ」と諭され、茲に酒との訣別を誓った。

その後、偶に顔を合わす飲み仲間はこの経緯を説き、決意はますます強固になり、一滴のアルコールも口にしていない。

20歳から60年呑み続けた酒にまつわる四方山話は悲喜交々、否、悔い雑多というべきか。酒との付き合いは居酒屋から始まった。その名を「神馬(しんめ)」と称し、京都西陣は千本中立売に今もある。入口脇に背丈程の樽を門構えにあしらっており、俗称「樽(たる)」という評判の店である。其処でおでんのコロ、エビイモの味を識った。この店が5年前『神馬—京都西陣の酒場日乗—』と題する単行本として新宿書房から上梓された。店頭に並ぶのを待って買ったのは言うまでもない。でっぷり太った今は亡き懐かしい女将の写真も載っている。当時の忘れられない話だが、この女将が管を巻く酔客に「うちは酔っぱらうところやおへん。代金は要りまへん。いんどくなはれ！！」と箒で追い払わんばかりに床を掃き出した光景に息を飲んだ。

ところで飲酒にはいろんな理由付けがある。なかでも死出(しで)への酒は痛ましく肅然とさせられる。あの戦争の終盤、神風特攻隊の出立に際する一献の酒。血盟団事件における井上日昭と同志の若者で交わす、わずかな酒もその一例。

また酒は慶事に欠かせないが逆に凶器にもなる。飲酒運転、酒気暴言が世情を騒がせる。老境の意地っ張りやと喧嘩しようが酒を絶つ。

景観グループ

◆ タナゴ池の生物調査

羽尻 嵩

12月12日(木) 天候一曇りのち晴れ。

9時ごろ近畿大学農学部の北川忠生先生と学生6名が来られて、タナゴ池の調査が始まった。

結果: ニッポンバラタナゴ 15匹、タガイ 2個、ヨシノボリ 117匹、ドジョウなどその他多数。



この調査は、ニッポンバラタナゴの育種を始めた2011年から毎年行ってきたもので、初年度では10匹のタナゴが255匹になり、ヨシノボリも3年目に29匹になり、今では100匹以上と増え続けています。

ただ、肝心のバラタナゴは二枚貝のタガイの死滅が増え始めた4年目ごろから減り始め、今では20匹前後になってきています。

問題は、バラタナゴが産卵するタガイが全く増えないことです。さらに毎年新たに投入した貝も死滅してしまうのです。二枚貝が増えなければタナゴも増えません。

考えられるのは、ザリガニが貝を攻撃して食べること、また、池に流入する水に粘土質の泥が大量に含まれていて、それが貝の生育によくない影響を与えていることです。

対策として、スルメを餌にしたザリガニの捕獲やヒシヤクでの泥の除去を続けてきました。しかし、死滅する貝が多い状態はずっと続いています。

来年はタガイの生育場所に砂をもっと入れたり、植物性プランクトンを増やしたりなどの工夫もしてみようつもりです。

里山の今



花だより

◆ 春の七草 ～新春の健康食～

坪井 都子

元日から数えて7日目を七日正月といい、古くから「七草粥」が行われています。とはいえ、この正月は太陰暦によるものなので、「立春」前後、つまり1月末から2月上旬という1年で最も寒さの厳しい時期にあたります。この時期、青い葉っぱの野菜類は殆ど食べることができませんでした。けれどもよくよく観察したところ、雪の下に寒さに負けず青々とした新芽を出している若菜たちを見つけたのです。



“籠もよ み籠持ち 掘串もよ み掘串もち
この岳に菜採ます児 家聞かな・・・”(万葉集)
雄略天皇のこの歌からも5世紀後半、奈良盆地では若菜が摘まれていたことが分かります。この時期の若菜はまさに新鮮な健康食そのものでした。
“せり なずな ごぎょう はこべら 仏の座
すずな すずしろ これぞ七草”

と和歌の体裁に整えられて、今に伝わっています。

- ・セリ (芹); 新春一番に芽を出し、鮮やかな緑の葉を伸ばし香気を放ち歯切れがよい。
 - ・ナズナ (薺); 実の鞘が三味線の撥に似ていて通称「ぺんぺん草」。薬用植物の1つで帰化植物。
 - ・ゴギョウ (五行・御形); ハハコグサ (母子草) のこと。白い軟毛に覆われ、茎の頂に黄色の花をつける。御形とは母子の形代。帰化植物。
 - ・ハコベ (繁縷); 生命力旺盛な越年草。有史前からの帰化植物で薬用植物 (歯磨き、利尿等)。
 - ・ホトケノザ (仏の座); キク科ヤブタバコ属のタバコ (田平子) のこと。一般に知られているホトケノザはシソ科で全く別物である。
 - ・スズナ (蕪・菰); カブのこと。帰化植物で仁徳天皇代、吉備の国で既に栽培されていた。
 - ・スズシロ (大根); スズナ同様、同時代に山城郡綴喜郡で栽培されていた。風邪や健胃に効用。
- さあ、正月7日には私たちも新春の健康食「七草粥」を頂きましょう。

11 月自然教室だより

「秋の奈良公園・自然観察会」レポート

辻本 信一

令和元年 11 月 27 日（水）紅葉の見ごろを迎え奈良公園にて今年最後の自然観察会を実施いたしました。

曇り空のもと、それでも 10 名の方にご参加いただきました。



【朝の集合写真】

午前 10 時定刻、集合場所の近鉄奈良駅行基像前を出発。大勢の観光客の間をすり抜け、まずは奈良県文化会館に直行。知る人ぞ知る「キミノクロガネモチ」観察。鮮やかな、かわいい黄色の実がひときわ目立ち私たちに存在をアピールしていました。



【キミノクロガネモチ】

次に向かったのは、今年、奈良県が 45 億円の巨費を投じ新設なったと言うバスターミナルの屋上展望台。【バスターミナルからの眺望】残念ながらこの日は雲にはばまれ若草山もかすんでいましたが、山焼きの時には絶景ポイントとなること間違いなしの感を持ちました



次に目指したのが、日本庭園で有名な吉城園。他府県からの来場者も含め 65 歳以上は入場無料なので、シニア世代の皆さまにはぜひ一度立ち寄られることをおすすめします。

足を踏み入れいきなり目に入ったのは真っ赤に色づいたドウダンツツジとイロハモミジの紅葉。他にも今や盛りと咲く赤や白のサザンカの花が我々の目を喜ばせてくれました。



【吉城園の日本庭園】

錦織りなす木々の紅葉ばかりでなく、寒いこの時期、ウメモドキやマンリョウの実も赤く色づきここぞとばかり異彩を放ちます。さらに縁起の良

い赤と黄色の実をつけたセンリョウや紅白の実をつけたナンテンの植栽は正月の飾りつけそのもの。



【赤実と黄実のセンリョウ】



【紅白のナンテンの実】

更に奥に進むと、「不老長寿の源」と呼ばれ杏仁豆腐に添えられることの多い赤いクコの実発見！

よく見るとその隣には紫色をしたナス科特有のかれんな花も見られました。クコの実には長い間木の上に残り翌年の花期に熟すので実と花が同時に見られます。



【クコの花と実】

盛りだくさんの吉城園見学のあと、東大寺境内に入り、戒壇院門前にて昼食。そこから大仏殿北側にあるラッパイチョウの木へと向かいました。



【ラッパイチョウ探し】



【パラソルイチョウ】

もちろん、お目当てはラッパイチョウ。各自たくさんのラッパイチョウを見つけていましたが、その中に

10 年に一度見つかるか 【素晴らしい紅葉のもと】
どうかのパラソルイチョウが 3 枚も見つかりました。その後は「来年は今年以上にたくさんの良いことがあるぞ！」を実感しながら、吉城川沿いを春日野園地まで、素晴らしい紅葉を満喫しながらのそぞろ歩き。



奈良公園の自然に感謝し、恒例の秋の紅葉狩り終了となりました。

日々好日！感謝！感謝！

月例研修会・レポート

大和三山と藤原京跡を巡る

中井 弘

12月3日(火)、今回は国の名勝に指定された畝傍山(199m)・香久山(152m)・耳成山(140m)の「大和三山」を踏破する企画である。参加者は25名、晴天に恵まれ近鉄「畝傍御陵前駅」を出発。

橿原神宮参道から畝傍山への登山道にはいる。火山が侵食されて現在の山容になったこの山は、山麓には神武天皇が即位された橿原宮があった所であり、由緒ある山である。

近隣住民の朝の絶好の散歩コースとみえて、多くの人たちと行き交う。山頂には畝火山口神社跡がある。昭和15年(紀元2600年)に現在の西山麓に遷座した。山頂付近からは金剛・葛城の連山、東には耳成山・香久山が望見される。羽尻さんによるとこの山には70以上の寺院があったという。

次の目的地・香久山に向かう。天武が創建した



とされる「本薬師寺」に立寄る。西塔・東塔・金堂の礎石が往時を偲ばせている。飛鳥川を渡り紀寺跡に至る。ここから見る香久山は照葉樹林が朝日に輝いて鮮やかな美しい姿を見せている。

天照大神が岩戸を閉じて籠ってしまったとされる「天岩戸神社」を経て、香久山に登る。古代には国見の地で、藤原京や大和国原が一望でき天皇が国見をしたという。日本書紀にはこの山の土には霊力があるとしている。

展望はきかないが眼前に畝傍山、金剛・葛城の山並みが望める。三山のうち香久山だけが火山ではなく、多武峰から派生した尾根の先端が侵食に



より独立して山になったといわれる。万葉集に最も多く歌われた山である。

村落や田園の中を通り藤原京跡に至る。大和三山に囲まれて藤原京が造営されており、この山々が重要な立地条件になったとされる。中国式の条坊制を採用した日本最初の都城で、持統が飛鳥浄御原宮から遷都し、本格的な都市として文武・元明の三代に亘って栄えた。しかし694年にわずか16年で平城京に遷都している。その理由は多くの説があるが、宮城がほぼ中央に位置していて中国では見られない形式であること、中央集権化による地方との頻繁な通交が不便などのほか、地形的に南部の方が標高が高く、その南部が官人、僧尼、庶民約10万人の居住区となっており、宮城の中央を流れる飛鳥川に糞尿やゴミなど汚水が流れ込む地形になっていたことも災いしたとされる。

最後に耳成山に登る。地質時代第三紀に噴出した火山岩が侵食されてその一部が残存した地形である。三山の中では最も低いが、平野部に聳え立つ独立峰のため、その端正な山容が一段と高く感じさせている。耳成山は藤原京の中軸にあたるために古代大和の都城計画の基準になったと推定されている。「耳成山口神社」までの参道は石灯籠と石段が続く。ご祭神「高皇産霊神」に拝礼して裏の頂上に登る。三等三角点があるが、残念なことに全く展望はきかない。西山麓に下り、近鉄八木駅に帰着した。

これで大和三山を完登した。距離は地図上では約10kmと思われるが、歩数計で25000歩だったとする人もいた。6時間弱の心地よいコースであった。みなさまよく頑張りました。

歴文研修会・レポ

元興寺とならまち探訪

永井 幸次

12月10日(火)9時近鉄奈良行基像前に24人集合。奈良町の範囲を簡単に説明の後、元興寺に向かう。元興寺の北門があったところが今御門といわれている。奈良には御門といわれている町が七町あり、元興寺にはそのうち三町あった。



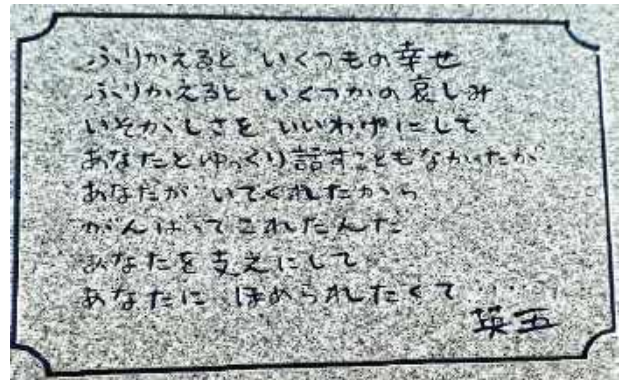
境内を散策後、辻村泰道副住職から元興寺の今昔の話を聞く。飛鳥時代の法興寺が平城遷都の時に奈良に移り、元興寺と改名され南都七大寺の一つになる。平安遷都の後には徐々に衰退し、特に室町時代の土一揆によって伽藍のほとんどを失うが、庶民の信仰に支えられて、五重塔(江戸時代に焼失)を祀る観音堂、小塔院、智光曼荼羅を祀る極楽坊だけが残った。廃仏毀釈の嵐によって明治から昭和前半までは無住の寺となり、小学校(後の飛鳥小学校)や奈良女学校などに使われた。

戦後、文化財保護法の下に極楽院を中心に復興、その過程で文化財調査保存のために設立された「元興寺文化財研究所」は民間唯一の総合文化財センターとして、世界的にも地道な実績を上げている。こうした説明を受けたあと金堂、宝物殿の見学をした。



昼食後、ならまちセンターに集合。元興寺から逃げた鬼が消えたという不審ヶ辻子町を通り、大乗院庭園を見る。優美な庭園であった。

十輪院では庭園と河島英五の墓標を見る。墓石の裏には素晴らしい詩が刻まれていた。



御霊神社は悲運のうちに亡くなられた8人の靈魂が祀られており、奈良町の氏神となっている。

興福寺の五重塔より大きかった元興寺東塔(五



重塔)は160年前までは奈良の名物として天平の姿を伝えていた

が、今は立派な基壇だけが残っている。

奈良町物語館は休みで金堂礎石が見ることができなかったが、奈良町資料館では館長さんから奈良町と庚申さんの話を分かりやすく面白く話していただいた。昔の町屋の看板はユニークで、その姿形をみれば(多少、トンチがいるのもあったが)商いがわかるのも面白かった。



元興寺小塔院の中を通り抜け、奈良市史料保存館へ。明教館を作った奈良奉行・梶野良材の活躍をはじめ、奈良町にかかわるいろいろな話を聞く。

その後、散在する登録有形文化財住宅を見ながら帰途についた。皆さん、お疲れ様でした。

芋煮会



宮崎 まさ美

12月12日。2019年最後のイベント、芋煮会の始まり。参加者は来客を含めて約100名。中心になるエコファームグループは早くから大わらわ。マイ包丁持参の男性陣、慣れぬ芋の皮むきに悪戦苦闘。女性陣は、狭い賄い場にて押し合いへし合い何種類ものおかず準備に追われる。



奈良・人と自然の会の芋煮会は2007年12月に始まったそう。その初回は猪肉入りのぼたん鍋だったのだとか。今年はそれから数えて13回目。牛肉たっぷり、山形の内陸風。ちなみに本家山形の芋煮も、海側 庄内地方の豚肉入 味噌味に対して内陸 山形市を中心とした地域では、牛肉入 醤油味なのとか。

かまどでご飯が炊きあがる。さっそくおにぎりにして、2度目の炊飯。今度は子供たちが植えた黒米入り。これもきれいな色に炊き上がり、計200個余りがもち箱に整列。皆の手に取られるのをまっている。

里芋、大根、人参、椎茸、蒟蒻、九条ネギ……ならやまで育った野菜中心にお肉が入って、いい匂い。里芋のごまみそ和え、春菊とほうれん草の白和え、親芋を使ったコロケ、大根のお漬物、大根葉の佃煮風、大根のなます、刺身こんにやく……所狭しとおかずが並ぶ。

例年通り、桜島大根の重量あてクイズが始まり、入賞者が次々に会長手作りのかわいいネズミをゲットしていく。見当外れの数字を書いた私は指をくわえて眺める。

いよいよ昼ご飯スタートの号令で長蛇の列。皆さんお行儀よく一列に。おわんとお皿を両手に、

もう一本手が欲しいとばかりに山盛りのお皿を持って慎重な歩み。軟らかく煮えた里芋に笑顔。まだ空のおわんを持って並ぶ人のそばで、お代わりはないの？と問う人も。給仕係はまだまだ続く列を眺めて、釜をの



ぞく。足りるかしらんと不安がよぎる。途中で出し汁を追加して、なんとかみんなに行き渡った。採り立ての野菜を大きなお釜でグツグツ炊いた芋煮の熱々を、みんなで一緒に食べる。自然に笑顔になる。「おいしいなあ！」の聲が聞こえる。これぞイモにケーション。里山の一年を締めくくるにふさわしいイベント。水を持ってきてくださる人、かまどで火の番をしてくださる人、薪の準備をしてくださる人、お米を洗ってきてくださった人、おかずの下ごしらえをしてくださった人、家の野菜をもってきてくださった人、おかず一品作ってきてくださった人、そして、買い物に走ってきてくださった人……大勢の人の協力でみんなの笑顔が生まれました。ご協力ありがとうございました。

おしまい、ならやま最後の焼き芋。たくさんとれた今年のサツマイモもこれでおしまい。ダッチオーブンからでてきた焼き芋をみんなが取り囲んで、食べていいよの声を待っている。まるでおあずけを食った犬みたいと、笑う声。よい大人がみんないい笑顔になっている。一切れの焼き芋を無邪気に喜んでいる。おいしい！

いい一日だった。ならやまの土とお日様とそこに集う人々の生み出した穏やかな一日に感謝！



第10回新そば祭り・レポート

そば文化クラブ 寺田 孝

令和元年11月28日、「第10回記念新そば祭り」が開催された。曇り空、肌寒い天気にもかかわらず、昨年を上回る87人が参加され、ならやま名物の新蕎麦の味を楽しんでいただいた。

会場の入り口に「景観形成活動とそば作り10年」のパネル。古い写真を前に思い出話が弾み、新入会員が聞き入る風景。「シニアCITYカレッジ」からの参加者7名と鈴木会長の対話が進むなど歴史と体験の交流が進められている。



午前10時、そば打ち開始。

あずま家で、田辺師範とそばクラブの腕利きによるデモ打ちが始まる。並行してメンバー5人が早朝から自宅で蕎麦を打つ両面作戦が進む。かくて11時までに180人分の蕎麦が準備される。

午前11時50分、茹で方開始。

薪の竈（かまど）は火力全開、2基の大釜から湯けむり。次つぎと茹で上がる蕎麦。洗って、氷水で絞める。秒単位の流れである。「挽き立て、打ち立て、茹で立て」の、水も滴る蕎麦が大笊（おおざる）に盛られていく。



12時。鈴木会長の挨拶で新そば祭り開始。

配膳机には、長蛇の列。手早くそばを盛付ける。辛み大根、薬味を添え「ぶっかけ」で新蕎麦の香りと味を存分に楽しんでいただく。



次は、暖かい「ニシンそば」や「そばのお焼き」が続く。「蕎麦ぜんざい」は、新そば祭り10回を祝う池田さんの苦心の一品である

参加者からは口々に「旨い」との言葉。蕎麦打ちには何よりうれしい瞬間である。持ち帰り用に準備した25パック50食分は、あっという間に予約満杯となる。40分の間に用意した180人分の蕎麦はすべて完食、完売となった。

例年の「新そば収量当てクイズ」は蕎麦の不作で中止となる。この日のために準備された田中さんの「干支の置物」約40点が、抽選で配られ、会場は歓声と拍手で大いに盛り上がる。

13時、そば文化クラブ古川代表の挨拶で終了。

『2009年秋、笹藪跡に蕎麦を播いて以来10年、荒廃地で「畑作りから蕎麦打ちまで」を合言葉に続けた我々の活動は、ならやまの景観形成に一定の役割を果たしたと考えています。これまで、当クラブに頂いた会員の皆さまのご理解とご支援に心からお礼を申し上げます』

忘年会・レポ

澤田 好男

12月7日(土)、日本料理 花鹿(かじか)にて令和元年の忘年会が催されました。

29名の皆さんにご参加いただき、盛会となりましたことをご報告いたします。

鈴木会長のご挨拶と古川さんの乾杯のご発声で開会となりました。

参加者の皆さんが持ち寄った各地の銘酒とおいしい料理に舌鼓を打ちながら、会の活動やお互いの身の上を振り返り、話に花が咲きました。



今回は、あらかじめご参加の皆さんから「今年の思い出エピソード」をご寄稿いただいております、忘年会のメインのプログラムとして、僭越ながら私がラジオのディスクジョッキー風に披露させていただきました。

「ならやま」の活動に関するものが多く、他に、個人的なニュースや社会情勢に対する怒りや喜びなどがありました。抜粋して紹介いたします。

- 天声人語にて、会や図録が取り上げられた
- 親子自然教室での母親の果敢なる木登り挑戦
- 大腿骨亀裂骨折が数週間で完治した
- 大親友の葬儀参列と初恋の人との再会
- イタリア人ハーフの孫の日本語劇的上達
- 西表島一人旅でシュノーケリング&SUP体験
- ラグビーW杯 JAPANの大活躍
- ローマ教皇のヒロシマ・ナガサキ訪問
- 藪跡や 果樹園の夢 去年今年
- 自分は1年間病気もせず元気に過ごせた!!
- 手紙・日記などを捨て、思い出の更新・削除
- 20年前に貸した本が返ってきた

皆さんのエピソードの中で、最も心を動かされ

たものを「感動大賞」に選定させていただきました。栄えある感動大賞は菊川さんでした。

菊川 年明

今年のならやまのことで、私の心に残ることは、撮り溜めた昆虫写真が、本会のお役に立てたことです。「お役に立てた」と表現しますが、「功績」を言うように聞こえるかもしれませんが、個人的な楽しみで撮り溜めていた写真が、思いがけず「日の目を見る」ことになり「ありがたいことでした」という意味合いです。

ならやまの昆虫は、十年前に比べて、ずいぶん減少していますが、ゾーンの整備が進んだり、樹液がたくさん出ていたクヌギの木がほとんど枯死や老木化したりで、やむを得ないことだと思っています。水環境はさほど変わっていないと思いますが、かつて生息していたトンボの種類数・個体数は極端に減ってしまい、これは不思議です。



古川審査委員長からは、「特に後半が重要な問題提起です!」と講評をいただき、鈴木会長から記念品が贈呈されました。

終盤はカラオケ大会で大いに盛り上がりました。最後は、恒例の『青い山脈』の大合唱(アンコールで2回も歌いました)で、心を一つにしました。

年を忘れる忘年会、新年に望む望年会を、仲間と共に楽しむことができました。



皆さまのご協力により盛会になりましたこと感謝申し上げます。 幹事一同(青木・戸田・澤田)



わたしのふるさと

木村 裕

ふるさとと言えばどこか田舎を想像しがちですが、私が育ったのは大阪市内、下町の小さな町並みが続く住宅街です。どこにも小川や田んぼ、森はありません。すずめや蝶はいましたが！ 誕生から大学卒業までずっとそこに住んでいました。天王寺駅前から路面電車の上町線(現在は阪堺線)に乗って 15 分ほどのところですよ。当時は市内の移動は市電が中心で、地下鉄は1号線のみが天王寺から梅田まで走っていました。また私が愛用した路面電車は、当時は上町線、平野線、阪堺線など3路線があり、阪堺線は堺を超えて浜寺駅前までのびていました。しかし地下鉄の開通とともに次々にちょん切られて、今では1路線を残すのみとなっています。



昔は緑色の電車

大阪市内の中心部は空襲で焼け野原になりましたが、幸か不幸か我が家のある一帯は焼け残りしました。そのため戦前からある住宅と細い路地が複雑に入り組んでいました。このあたりでは広い大通りから一歩外れると、あとは荷物を運ぶオート三輪(今は存在しないですね。アジアの一部ではまだ現役で人を運んでいます)がぎりぎりでも通れるような狭い路地ばかりで子供たちが道で遊んでも交通事故とは無縁でした。いまでは考えられないような極めて安全なところで育ちました。

ところどころに空襲での焼け跡の空き地があり、子供たちの格好の遊び場でした。

空き地に茂るヤブガラシの花にはいろいろな蝶や蜂が集まり、昆虫少年を喜ばせてくれました。また、水たまりには、ゲンゴロウやコオイムシがたくさんいました。これが私の昆虫に関わるきっかけになったものと思われます。

当時は、公設市場(今ではありません)を核としてその周りに集まる個人商店が一体となって大きな商店街となっており、日々の生活用品や食料はそこで調達していました。

今回、原稿を書くにあたり半世紀ぶりにふるさとを訪れました。路面電車にも乗りました。出発すると、電車は道路の真ん中を車と一緒に走って走り、やがて道路から離れて専用軌道に入るところは昔と変わっていません。駅からの町並みは昔の面影は残っていませんでしたが、路地の入口の目印となる小学校は残っており、昔と同じ学校名でした。道沿いの商店はすっかり変わっていましたが、うどん屋のみが昔のままで営業していたのは懐かしかったです。世代が2回くらい変わっているのかも。

昔、よく遊びに行った小高い丘の上のお寺(聖天山)もありました。虫取りした森は、マンションと墓地になっていましたが、寺の裏にはまだ大きな木がそびえる森がひっそりと残っていました。



路地の奥にあった元の我が家がまだそのまま残っていたのには驚きでした。築80年を超えています。元気ですね！ 周りの住宅も同様に新しい近代的なものはありません。昭和が元気に生きていました。

ならやまトーク・投句（去年今年）

去年今年心の炎たぎらせる

鈴木未一

（昨年も八面六臂の活躍だった。喜寿を過ぎても衰えぬ情熱。夢とロマンのトーチを掲げ、平成から令和の世を韋駄天のごとく駆け続ける）

元旦や釈迦の手の皺一つ越え

羽尻 嵩

（振り返れば、いい時代に生きさせていただいた。本年もお釈迦様の手の平の片隅で遊ばせてください。）

新年やレバノシ杉を見上げたし

阿部和生

（荒涼たるレバノン山脈、嘗ては豊かなレバノン杉の森だった。古代メソポタミア文明興亡の陰に消えた森の教訓。森林インストラクターの思い）

三輪登拝素足の女人の初詣

阿部和生

（例年の三輪山への新春参拝。磐座への道で素足で登拝する女性に出会う）

やーやーと笑顔あふれて年始

桜木晴代

（令和初めての正月、初出の日も笑顔で乾杯、いい年になーれ）

笹鳴きの仕草も愛し庭の朝

千載輝重

（チャツチャツと地味になく驚。ホーホケキヨにはない愛しさが・・・）

竹垣に五羽揃いたり初雀

阿部和生

（ならやまで作業していると、目の前に雀が五羽来て並んだのにびっくり。昔は何処でも見かけた雀、住み辛くなったか随分少くなった）

投句歓迎（古川まで）

ノーサイド共に湯船のラガーたち

藤原 勲

（ラグビーワールドカップにわいた一年。「ワン・チーム」「ノーサイド」の言葉に皆が酔った。温泉文化の日本では、こんなシーンも）

白菜を小脇に抱え太鼓腹

藤原 勲

（ならやまの昼下がり、ユーモラスな風景。白菜と太鼓腹の対比が秀逸）

思立ちほのかに香る柚子湯かな

岡田安弘

（ならやまでもらったユズ。試しに風呂に入れてみた、いい湯だな〜）

年毎に増える喪中の葉書かな

岡田安弘

（年賀状を書きながら、しみじみと思う我が年齢・・・）

ゆずの香に心和むる湯あみかな

八木順一

（ならやまの世話役として何かと心労も多かったのでは。ゆず湯のアロマテラピーで溜まった一年の疲れを少しでもほぐしてください）

せきれい

鶴鶴の歩みせわしや年の暮れ

戸田博子

（西池の周りに鶴鶴がせわし気に歩き回る。年内の活動もあと一回）

一年を大鍋で焚く芋煮かな

古川祐司

（ならやまの一年、忙しかったが実りも多かった。喜びも苦しみもみんな芋煮の大鍋に炊き込んで、ほっこりと笑顔の大団円となる）

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活 動 予 定 日

1 月	9 (木) 16 (木) 23 (木) 30 (木)
2 月	6 (木) 13 (木) 20 (木) 27 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前 9 時
- ◆ 終了予定：午後 3 時

◆アクセス

- ① J R 平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 J R 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

- ◆ 連絡先：八木 順一



里 山

1/9 初出式・10 年継続会員記念植樹式

1/16 協働活動日（備品点検）

景 観

1/9 16

楢木の作成・コナラの枝整理／マキ割り
ユート：松山平の整備

23

楢木の作成・コナラの枝整理／マキ割り
植樹用コナラの根切り
ユート：バカマツタケ実験区の整備

30

楢木の作成・コナラの枝整理／マキ割り
マキ材の玉切り／植樹用コナラの根切り
ユート：バカマツタケ実験区の整備

エコファーム

1/9

ハウス用の竹取り チップ入れ／冬野菜など収穫

16

冬野菜など収穫／水田にチップ入れ水路
整備／ボカシ肥料作り

果樹：梅の剪定／各種果樹への寒肥施肥

23

冬野菜など収穫／育苗ハウス補修整備 チップ入れ
／果樹：梅の選定／各種果樹への寒肥施肥

30

冬野菜など収穫／丸太階段補修チップ入れ
育苗ハウス補修整備

果樹：梅の剪定／各種果樹への寒肥施肥

1/9 整備：ミーティング（竹林整備段取り他）
ビオ池：池の整備

花：七草採集、七草粥作り、西入口草取り

16 整備：BC 竹林整備

ビオ池：池の整備

花：山野草園草取り、柵作り

23 整備：BC 竹林整備

ビオ池：西池水抜き

花：山野草園草取り、柵作り

養蜂：巣箱及び周辺環境整備

30

整備：BC 竹林整備

ビオ池：西池泥除去

花：菖蒲園草取り

養蜂：巣箱及び周辺環境整備

パトロール

1/9 観察路点検／ミーティング

16 観察路点検整備／丸太階段、手すりロープ
補修／標識ペンキ塗り

23 30 観察路点検整備／丸太階段、手すり
ロープ補修／草刈り、倒木処理

コースパトロール：2→3→4→1

行事案内



奈良学クイズ

『新春講演会』『懇親会』のご案内

下記の要領で開催致しますので、多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

日 時： 2020年1月26日(日) 13:30 集合
場 所： ホテルリガーレ春日野 奈良市法連寺
交 通： ホテルバスが送迎します
JR 奈良駅東口 13:00 発 ➡ 近鉄奈良駅⑥出口
「奈良駅前交番」裏 13:10 発 ➡ ホテル 13:20 着

講演会 (13:50~15:20)

会場：2階 畝傍の間

講師：木村全邦(きむらまさくに)氏

「森と水の源流館」(吉野郡川上村)

企画調査班班長

専門分野:コケ植物の専門家 コケ植物の分類・
生態調査・保全活動に携わる

演題:「生物多様性とつながる私たちの暮らし
～自然が大事なのって何で?～」

概略:人間の生活や文化はその地域の自然環境
に大きく影響を受けています。日本独特
の里山景観も木の文化が成立した日本だ
からのものです。

吉野川上村では500年以上前に世界初
の植林を始め、木材生産が行われてきま
した。その奥山には日本でも稀有な広大
な原生林を残し苔植物も多くの種類が繁
茂しております。

普段気にすることもない人と自然のつ
ながりを国連の「生物多様性の10年」の
最終年の機会に、改めて考えてみたいと
思います。

懇親会 (15:30~17:30)

会場：1階 天平の間

費用：4,300円

申込み：青木幸子

幹事：八木(順) 森 中井



毎年秋に奈良市内の神社で、太夫が面を付け天
下太平を祈願する舞を演じます。太夫が付けてい
る面は、室町時代の作と伝えられています。また、
民族芸能史上、きわめて貴重な「三人舞」という
メインの舞も演じられます。

【問1】この神社の名称をお答えください。

【問2】この舞が、国の重要無形民俗文化財に指
定されたのは、西暦何年ですか。

【締め切り日】令和2年1月3日(必着)

【景品】????????

2月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動

22日(土) シイタケ菌打ちイベント

* 月例研修会

18日(火) 明神山から太子道へ



◆ 申し合わせ ◆

以上